受講生各位

皆さんにもご協力いただいた「NHK 20min」の記事です 11/9 東新聞

■こちら■ 編集委員室

もう一度真剣に学びたい

過日、NHKの深夜番組で、六十一歳の主婦が大学に入学し、それを息子が映像で追ったドキュメンタリーがあった。主婦が教室で同様の高齢学生と真剣に学び、コンパを楽しみ、時に息子と白熱した議論をする光景は、年齢を超えて「自分の人生を歩む」という強い信念を感じさせ、共感を覚えたものである。

この主婦のように、子供が社会へ巣立ち、人生の区切りを迎えた女性が最近、大学を目指すケースが増えたような気がする。私の周辺でも何人かの女性が念願の入学を果たした。彼女たちに共通するのは強い信念と勉学への意欲である。もう一度学びたい、という気持ちが彼女たちを突き動かしているのだ。だから授業は決してさぼらないし、予習にも真剣。もちろん授業料の滞納なんかもない。知り合いの〝還暦女子大生〟は、そんな大学生活を「充実した日々」という。

「授業は難しいけど、日々新しい知識に出合えて面白い。若い人たちと友達になれて楽しいし、刺激にもなる。なにより人生に張り合いが生まれて…」

今は少子化時代で、どの大学も経営難だ。学生の招致合戦やサービス向上なども必要だろうが、学びたい社会人にもっとPRして門戸を広げてみてはいかがだろう。先生は大変だろうが大学の好感度は上がるし、学生も増えて経営も潤う。なにしろ末広がりの高齢化時代なんだから…。

（田中　哲男）

ステラ 11/19号

10月24日の深夜に総合テレビで放送された〈ドキュメント20min.〉「母が突然、女子大生になった!?」を、番組のタイトルにひかれて拝見しました。60歳を過ぎてから、突然大学に通い始めた主婦・松原さんの息子であるディレクターが、母の心に迫ったこの番組。人は、家庭という場で家族とともに同じ時間を過ごしながらも、すべてをさらけだしているわけではないということ、それでも、家族だからこそ伝わるものがあるということを感じる内容でした。

過去に、自分が原因で、母が体調を崩してしまったのではないか……という思いを抱きながらも、それを口にしたことがなかった息子。今回、思い切ってそのことについて聞いてみると、母はきっぱりと否定しました。「あなたの生活が乱れたときも、あなたの本質を知っていたから信じていた。ただ、あなたが苦しんでいる姿を見ることがつらかった」と言う母の言葉を聞き、泣いてしまったと話す息子。その姿を見て、もらい泣きしてしまいました。

大学時代、学生運動で思うように学ぶことができなかった母は、子どもたちが巣立った今、大学に行ってもう一度自分を見つめ直しているのだと思います。生き生きとしたその姿は、家族にもじわりと影響を与えたようでした。20分という短い時間でしたが、〝生きていくとはどういうことか〟〝家族とは何か〟という大きなテーマに迫ったよい番組だったと思います。心が温まりました。

（北海道・松本恵子さん・63歳）